

令和5年度 梓川公民館関係役員名簿

町会	町内公民館長	子ども会育成会長
八景山	金井 信一	金井 深
花見	◎ 宮下 正	山田 賢一
上野	斉藤 政人	輪湖 秀敏
丸田	萬井 増博	小竹 利夫
上立田	伊藤 邦世	浅治 尚也
下立田	(理) 小松 茂	西牧 清水
杏	岩原 厚史	中澤 光治
こまち	沼田 英也	松村 雅紀
角影台	小野 和昭	大日方 亨
上角	原口 邦彦	下林 修
下角	丸山 隆	塩田 晋介
小室	○ 高瀬 浩一	西牧 宏
北々条	三村 徳義	八弐 淳
南北条	丸山 政則	西村 順典
大久保	長瀬 隆浩	小松 哲司
北大妻	(理) 西村 勝匡	○ 金井 佳代
上大妻	栗原 徹	(監) 小嶋 泉
南大妻	降旗 邦敏	(監) 小澤孝太郎
横沢	細田 正博	◎ 福嶋 寛人
氷室	市田 政男	古田 啓二
岩岡	児玉 治郎	牛田 隆男

◎会長 ○副会長 (理)理事 (監)監事 敬称略



梓川地区町内公民館長 宮下 正

令和5年度 梓川地区町内公民館長会 就任のあいさつ

この度、梓川地区町内公民館長会長に選出されました。梓川地区並びに各町内公民館役員の皆様のご協力をいただき務めさせていただきます。

新型コロナウイルスの感染拡大により3年間にわたり公民館活動が大きな影響を受けてまいりました。今年度から地区運動会が廃止されることとなり、また7月に開催予定の梓川地区スポーツ祭も、安全・安心を最優先としてまわづくり協議会において今回は中止と決定されました。人と人との交流が制限され

地域のつながりも希薄になってきてきていると感じられています。このような状況ですが、公民館では親睦や交流、健康増進・文化活動の振興などの実現を目的として行事やそれぞれの講座・教室学習会などが計画されています。感染対策を行った上で皆さんが集い、様ざまなふれあいを通して地域の優しさや温かさが感じられる公民館活動を心がけてまいります。ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



梓川の世帯数・人口

世帯数	4,809戸
人口	12,278人
男	6,069人
女	6,209人

(令和5年5.1現在)



川村前館長 4年間 皆様には大変

退任のあいさつ

お世話になり、任期を満了することができ、心より御礼申し上げます。新型コロナで講座や地区行事ができず、至らない点など多々あったと思いますが、大勢の皆様からの温かいお力添えにより職務の遂行ができ、感謝申し上げます。今後も地域づくりに協力してまいりますのでよろしくお願いたします。

新任のあいさつ



西牧新館長 梓川地区町内公民館連合会の推薦による

り公民館長に就任しました。新型コロナウイルスの影響で制限されていた活動も徐々に再開するものと思います。公民館が住民主体で互いに楽しむことができる交流や活動の場となるよう公民館活動を推進したいと考えておりますので、よろしくお願いたします。



小松職員 本年度より 梓川公民館に事務員

新任のあいさつ

として勤務することとなりました。何分、初めての務めとなりますが何卒よろしくお願ひ申し上げます。公民館の活動は皆様と身近なものであり、皆様の支えがあつて成り立っております。私は梓弓研究会の副会長として活動しており、講座などでお役に立てましたら幸いです。

新任のあいさつ



安藤主事 4月より 公民館主事として着任

しました。以前は資産税課で新築家屋の調査を主に行っていました。初めての異動で一からのスタートとなりますが、梓川地区の皆様のお力になれるよう頑張っていきたいと思っております。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

通学路を見守り

早朝、子どもたちの登校風景の中に、緑色のビブスを着た方を見かけます。梓川地区で子どもたちの登校時の見守り活動を行っている『あずさっこ見守り隊』というボランティアの皆さんです。発足して10年目となる現在、12人の方が地区の安全のために見守り活動を続けています。

充実した活動

毎朝、自宅前の交差点付近で活動する中嶋さんは「近所の子どもたちと毎日あいさつをして、元気をもらっている」と笑顔で話していました。

また、梓川小学校前の横断歩道で活動する川村さんと丸山さんは「地域の安心・安全のために、毎日子どもたちに声をかけることが大切」と、また「通勤の忙しい時間でも、スピードを抑え子どもたちの登校を見守ってくださるドライバーが増えた」と感謝していました。

隊員の募集

現在の見守り隊の課題は「高齢化による隊員の減少」と「通学路の交通量の増加」です。



▲梓川小学校前



▲笑顔で見守り

もう少し大勢の方の目で見守ることができれば、より一層安心できると感じます。見守り隊の活動に興味のある方は、梓川公民館（梓川支所内）にご連絡ください。（78-3001）

ぐるっとまつもと運行開始

4月1日、松本地域の路線バスが公設民営になり「ぐるっとまつもと」が運行を始めました。地区内を運行していた西部地域コミュニティバスも便数や運行ルートが見直され、終点が新村駅から梓橋駅に変更されました。

利用者の声

4月半ばの平日朝の通勤通学時間帯に利用すると、すでに高校生5人が乗車していました。乗客で市内の高校に通学しているという女子高校生（3年）は、この4月から週3回ほど利用しており、「バスで駅まで通えるようになったのは便利だが、毎回往復300円の出費は高校生にとつて大きい」と話していました。

運転手に4月からの利用状況を探ねると、「市立病院までの直行便がなくなり、波田駅



▲梓橋駅

から病院までの坂道を高齢の方が歩いているのを目にする」とのこと、利用者にとつては一長一短があるようです。

実証運行の開始

10月から地域の店舗や病院などをつなぐAI活用型オンデマンドバス（予約運行の乗り合いバス）が実証運行され、住民の生活の足として、不足する便数や運行ルート空白地帯の解消が期待されます。定期券の導入や回数券の拡大による負担軽減、キャッシュレス決済の早期導入による利便性の向上など、多くの住民に長く利用される公共交通となつてほしいと思っています。

雑記帳



新型コロナウイルスの規制も緩和され始め各地で催しも再開されつつあるなか、梓川地区最大の祭典である大宮熱田神社の例祭は今年も神事のみで開催となった。小学生は太鼓、高校生以上は獅子舞と、地域の親睦も深めつつ歴史ある祭りに参加できることが楽しみであり誇りであった。成人してからは宵祭前日の準備を終えた後「前祝い」と称して駅前にお練り出し朝まで飲んでそのまま職（職）たてをする元気もあつた。しかし今では年配者や女性が多く、あの大きな職をたてるのも一苦労である。宵祭の山車の子どもの太鼓も少子化により保護者が補助し、祭の華である獅子舞の奉納も我が町会では40代以上が現役である。他の町会でも人手不足に悩まされているようだ。また、町会ごとにお囃子（はやし）や踊りも違うので統合もできず難しい問題でもある。

来年の開催に向け協議を重ね、歴史と伝統を尊重しつつ時代の流れに沿った形でまたあの楽しい「お祭り」が返ってくることを望みたい。